



学校だより

1月号

【か】よくかんがえ 【な】なかよく 【が】がんばる 【わ】わたしたちかなっ子
神奈川小公式WEBページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kanagawa/>

令和5年1月10日
横浜市立神奈川小学校

笑門来福

校長 田名部 和美

子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。2023年の始まりです。今年も子どもたちにとって安全安心な学校づくりに努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

新年第一回目の朝会では、「笑門来福（笑う門には福来たる）」の話をしました。実は、昨年の最初の朝会でも私が書いた書初めを見せながらその意味について話をしています。この「笑門来福」には一つの意味として、いつも笑いが絶えない家には自然と幸福がやってくる、いつも明るく朗らかであればおのずと幸せがやってくる、というものがあります。また、悲しいことや苦しいことがあっても、希望を失わず笑顔で朗らかに生きていれば幸せが訪れるという意味もあります。つまり、笑顔で朗らかにしていることが自分を幸せにすることにつながる、ということです。私自身も心がけていることですが、年の初めにあたって改めて、子どもたちが常に笑顔いっぱい過ごしてくれることを願いこの話をしました。

この3年間は、子どもたちの当たり前が大きく変わりました。コロナ感染が話題にあげられる前に比べ、「運動量が減り体力がなくなった」「テレビや画面を見ることが増え視力が落ちた」「話すことがはばかれるため会話や挨拶さえ減ってしまった」ということをよく耳にします。マイナスな面ばかりが気になりがちですが、子どもたちの様子を見てみると、マスク越しでも表情豊かに歌を歌うことができたり、自分の運動量に合わせてマスクを着脱したり、新しい当たり前を自分の生活に取り入れています。また、校門での朝の挨拶は、しっかりと目を合わせたり、笑顔であったり、挨拶の大切さをマスク越しながらも伝えようとする様子も見られます。こんな状況だからこそ、自分の生活を自分でより良いものにしていく力を身に付けていくことが必要です。様々な活動に挑戦したり、自分のよさに目をむけたりしながら、更に笑顔いっぱいのかなっ子になってほしいという願いを子どもたちに伝えました。

少しずつ制限が解除されており、今後も変更されることがあるでしょう。それに対して戸惑う場面もあるかもしれませんが、自分の力でしっかりと乗り越え、笑顔で過ごせるかなっ子たちに育てていきたいと思っています。

2023年も、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。